

---

－平成 25 年度環境省地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業－  
最終報告書

---

**付録 3:協働ギャザリング 2014(年度末報告会)－論点整理**

【付録 3-1: 協働ギャザリング参加者の評価コメントに基づくプロジェクトの有効性(プラス評価点)】

いいね(プラス評価点)		
[1] 日本環境協会	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここまで管理している実態に脱帽です。予算化につながる協力をしたい。[1]</li> <li>環境カウンセラーも活用されていることはいいね。[1]</li> <li>子どもエコクラブ体験者がサポートになる仕組み。[1]</li> </ul>
	効果／目標達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここまで管理している実態に脱帽です。予算化につながる協力をしたい。[1]</li> <li>良い人からつながりを広げようとする試み。[1]</li> </ul>
	計画妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここまで管理している実態に脱帽です。予算化につながる協力をしたい。[1]</li> <li>良い人からつながりを広げようとする試み。[1]</li> <li>“子ども”という入口は未来、(その子の)家族という広がりが大きいという点が強み。[1]</li> </ul>
	関係主体の巻込み度	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境カウンセラーも活用されていることはいいね。[1]</li> <li>子どもエコクラブ体験者がサポートになる仕組み。[1]</li> </ul>
	関係主体の満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出されたデータに対し、きちんと返信いただいていること、このような活動が後々つながると思います。[1]</li> <li>登録するだけで学習キットや報告フォーマットなど得られるのは各団体にとって利点だなと思います。[1]</li> </ul>
	社会的インパクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>N/A</li> </ul>
	自立発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもエコクラブ体験者がサポートになる仕組み。[1]</li> <li>“子ども”という入口は未来、(その子の)家族という広がりが大きいという点が強み。[1]</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもエコクラブの今後の活動の方向性が分かったことがよかったです。[1]</li> <li>ニーズが見えてきた。問題解決への意識が高まつた。[1]</li> </ul>
[2] あおぞら財団	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生という存在の活用法。[2]</li> <li>ステークホルダーの役割をうまく使っていると思った。[2]</li> </ul>
	効果／目標達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>各団体が主張することによってまとまりがつかなくなると思いますが、各団体がきちんとまとまったことはすごい！[2]</li> <li>「公害」を「教育で地域と企業をつなぐ」、すごくいいです！[2]</li> <li>「みんなも同じような悩みを抱えていた」と気付くことのできるヒアリング、会議などを開催できた。[2]</li> <li>従来では考えつかない発想、着眼(公害地域を結ぶという)。[2]</li> </ul>
	計画妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの弱みを自覚したところ。[2]</li> <li>企業の責任を問うという形ではなく、上手に Win-Win になる形をデザインできている。[2]</li> <li>公害患者の願い！を実現し活動の原点にしているところがいい。[2]</li> <li>今までなかったのが不思議なくらい。あって当たり前の取組が今回の事業で出来たのがよかったです。[2]</li> <li>公害をわかりやすく(理解じゃなく)することはいい。[2]</li> <li>「悲しみの語り部」に頼るだけではないというのは正しい。[2]</li> <li>「公害」を「教育で地域と企業をつなぐ、すごくいいです！[2]</li> <li>共有の場ができた。[2]</li> <li>公害教育と環境教育を結びつけたところ。[2]</li> <li>集まろうと声かけ役をしたことはえらい。[2]</li> <li>ステークホルダーの役割をうまく使っていると思った。[2]</li> <li>「みんなも同じような悩みを抱えていた」と気付くことのできるヒアリング、会議などを開催できた。[2]</li> <li>従来では考えつかない発想、着眼(公害地域を結ぶという)。[2]</li> </ul>
	関係主体の巻込み度	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流の力で課題の克服を期待しています。[2]</li> <li>語り部に頼りすぎ→自分の周りを見直すきっかけになる、する→多種多様な人が集まる場。[2]</li> <li>学生の意見が企業の姿勢を変える。[2]</li> <li>学生という存在の活用法。[2]</li> <li>共有の場ができた。[2]</li> <li>集まろうと声かけ役をしたことはえらい。[2]</li> <li>ステークホルダーの役割をうまく使っていると思った。[2]</li> </ul>
	関係主体の満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流の力で課題の克服を期待します。[2]</li> <li>運動→教育へのパラダイムシフト。[2]</li> <li>学生の意見が企業の姿勢を変える。[2]</li> <li>学生という存在の活用法。[2]</li> <li>共有の場ができた。[2]</li> <li>楽しいという部分を聞きたい(乗りこえたプロセスを伝える教育プログラム)。[2]</li> </ul>
	社会的インパクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の意見が企業の姿勢を変える。[2]</li> <li>学生という存在の活用法。[2]</li> </ul>

[3] 知床ウトロ海域環境保全協議会準備会	自立発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動→教育へのパラダイムシフト。[2]</li> <li>学生の意見が企業の姿勢を変える。[2]</li> <li>学生という存在の活用法。[2]</li> <li>組織の学習になる課題の発見→それを促す仕組み。[2]</li> <li>ステークホルダーの役割をうまく使っていると思った。[2]</li> <li>仕組みができたことがいい。[2]</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>林さんの元気がいい！[2]</li> <li>プレゼン力が素晴らしい。伝える力は協働に必要だと思います。[2]</li> <li>発表がおもしろいところがよかった。[2]</li> <li>海外への発信ぜひがんばって。[2]</li> </ul>
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査データの共有(OKを出した調査依頼主もエライ)。[3]</li> </ul>
	効果／目標達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケイマフリをメインにしている知床の生物×観光×調査・科学的データ。[3]</li> <li>協議会メンバーの属性、歴史、文脈に配慮した場づくり。[3]</li> <li>互いに一步づつ進んだこと。[3]</li> <li>違う立場の人が同じテーブルについたことは素晴らしい。[3]</li> </ul>
	計画妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケイマフリをメインにしている知床の生物×観光×調査・科学的データ。[3]</li> <li>協議会メンバーの属性、歴史、文脈に配慮した場づくり。[3]</li> <li>他の地域でもモデル適用できそうです。[3]</li> <li>調査データの共有(OKを出した調査依頼主もエライ)。[3]</li> </ul>
	関係主体の巻込み度	<ul style="list-style-type: none"> <li>保全と活用を連携させて地域を巻き込んだ。[3]</li> <li>サステナブルツーリズムの可能性。[3]</li> <li>地域が求めている財産を守るために Win-Win の構築に賛同。[3]</li> <li>お互いのメリットを集まって出せたこと、Win-Win。[3]</li> <li>協議会メンバーの属性、歴史、文脈に配慮した場づくり。[3]</li> <li>若者への権限移譲[3]</li> <li>違う立場の人が同じテーブルについたことは素晴らしい。[3]</li> <li>調査データの共有(OKを出した調査依頼主もエライ)。[3]</li> </ul>
	関係主体の満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>サステナブルツーリズムの可能性。[3]</li> <li>地域が求めている財産を守るために Win-Win の構築に賛同。[3]</li> <li>お互いのメリットを集まって出せたこと、Win-Win。[3]</li> </ul>
	社会的インパクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>サステナブルツーリズムの可能性。[3]</li> <li>観光資源として認められた事。[3]</li> <li>地域が求めている財産を守るために Win-Win の構築に賛同。[3]</li> <li>お互いのメリットを集まって出せたこと、Win-Win。[3]</li> </ul>
	自立発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的(規制に頼らない保護の仕組み)。[3]</li> <li>サステナブルツーリズムの可能性。[3]</li> <li>観光資源として認められた事。[3]</li> <li>観光資源の発掘！スゴイ。[3]</li> <li>財産資源商品。[3]</li> <li>「知床スタイル」というネーミングがいい。[3]</li> <li>デザインがかわいい。[3]</li> <li>ケイマフリをメインにしている知床の生物×観光×調査・科学的データ。[3]</li> <li>地域が求めている財産を守るために Win-Win の構築に賛同。[3]</li> <li>お互いのメリットを集まって出せたこと、Win-Win。[3]</li> <li>若者への権限移譲[3]</li> <li>調査データの共有(OKを出した調査依頼主もエライ)。[3]</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>細かいことは気にならないのが協働のキモ。[3]</li> </ul>
[4] もりねつと北海道	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境局、教育委員会の協働によるノウハウの共有・共同実施。[4]</li> <li>環境計画・教育方針、教育政策とのリンク。[4]</li> <li>旭川市、環境人材ネットワークの効果的活用。[4]</li> </ul>
	効果／目標達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体担当部局と教育委員会が協働しているのがいい。[4]</li> <li>旭川市との協力関係の構築がポイントだったと思います。[4]</li> <li>環境計画・教育方針、教育政策とのリンク。[4]</li> <li>ワクワクする「事業」で関係者を巻き込んだ事。[4]</li> </ul>
	計画妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>森で遊ぶ「先生」を増やす、という点。[4]</li> <li>環境計画・教育方針、教育政策とのリンク。[4]</li> <li>動物園に行く前の事前学習に活用→地域にあっている。[4]</li> <li>ワクワクする「事業」で関係者を巻き込んだ事。[4]</li> </ul>
	関係主体の巻込み度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体担当部局と教育委員会が協働しているのがいい。[4]</li> <li>旭川市との協力関係の構築がポイントだったと思います。[4]</li> <li>アンケートの項目、実施に教育委員からのアドバイスがあったこと。[4]</li> </ul>

<b>[5] J A S F A</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートに教育委員会・市教育部の連携ができた。[4]</li> <li>● 学校への積極的関わりがすばらしい。[4]</li> <li>● ワクワクする「事業」で関係者を巻き込んだ事。[4]</li> <li>● 学校の年間スケジュールのお得な情報を得ている→実行委員に学校関係者を入れる。[4]</li> <li>● 旭川市さんの協働に対する理解。[4]</li> <li>● 環境部局が仲介してもらえてよかった。[4]</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 関係主体の満足度</li> <li>● 学校への積極的関わりがすばらしい。[4]</li> <li>● 「先生を増やす」先生に癒しもできて大事ですね。[4]</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会的インパクト</li> <li>● 子どもの喜ぶ姿を見て親も先生もかわった。[4]</li> <li>● コドモが喜べば親も先生も喜ぶ。子どもから学ぶこともある。[4]</li> <li>● 先生、親など大人を対象としたスキルアップが考えられている。[4]</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自立発展性</li> <li>● 自治体担当部局と教育委員会が協働しているのがいい。[4]</li> <li>● 旭川市との協力関係の構築がポイントだったと思います。[4]</li> <li>● 教育円卓という仕組み。[4]</li> <li>● 環境計画・教育方針、教育政策とのリンク。[4]</li> <li>● 学校の年間スケジュールのお得な情報を得ている→実行委員に学校関係者を入れる。[4]</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● その他</li> <li>● ほ乳類のコドモ？。[4]</li> <li>● 「コドモ」とカタカナにしたのがいい。[4]</li> <li>● トランクキットのネーミングがいい。[4]</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 効率性</li> <li>● 多様な制度を活用している。[5]</li> <li>● 地域資源のつなぎ方、活用。[5]</li> <li>● 3.11 以降の新しいガバナンスの活用(復興要素？)総合リンク。[5]</li> <li>● メンバーの明確な立ち位置(ミッション、役割、心構え)。[5]</li> </ul>
<b>[5] J A S F A</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 効果／目標達成度</li> <li>● 多様な制度を活用している。[5]</li> <li>● 地域資源のつなぎ方、活用。[5]</li> <li>● 3.11 以降の新しいガバナンスの活用(復興要素？)総合リンク。[5]</li> <li>● メンバーの明確な立ち位置(ミッション、役割、心構え)。[5]</li> <li>● 市の部局を超えた協働づくりになったことが素晴らしい。[5]</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 計画妥当性</li> <li>● 多様な制度を活用している。[5]</li> <li>● 地域資源のつなぎ方、活用。[5]</li> <li>● 3.11 以降の新しいガバナンスの活用(復興要素？)総合リンク。[5]</li> <li>● メンバーの明確な立ち位置(ミッション、役割、心構え)。[5]</li> <li>● 環境未来都市の循環が三様な分野をつなぐ構造になっているのが素晴らしい。[5]</li> <li>● 地域が元気になるモデルに被災地がなろうというのが素晴らしい。全国の過疎地域のモデルになってほしい。[5]</li> <li>● 組織が大きくなつても良い循環が生まれている。関係づくりが上手ですね。[5]</li> <li>● 被災地に必要な取組。[5]</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 関係主体の巻込み度</li> <li>● 地域資源のつなぎ方、活用。[5]</li> <li>● 行政側のサポートもしっかりしているようですので、良い協働になっていて素晴らしい。[5]</li> <li>● 教育委員会と協働できているのが大変良いと思います。[5]</li> <li>● 医療・福祉や農商工関係など、多様な協働が素晴らしい。[5]</li> <li>● 企業ネットワーク(人、ノウハウ、機会)。[5]</li> <li>● 福祉関係者のまきこみ、パートナーシップ。[5]</li> <li>● 企業の全国ネットワーク。[5]</li> <li>● 組織が大きくなつても良い循環が生まれている。関係づくりが上手ですね。[5]</li> <li>● 市の部局を超えた協働づくりになったことが素晴らしい。[5]</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 関係主体の満足度</li> <li>● 卷き込まれているのが素晴らしい。[5]</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会的インパクト</li> <li>● 大人の環境教育が雇用に、すごいです。[5]</li> <li>● ビジネスにもつながり地域をリードしているのがいいね。[5]</li> <li>● 組織が大きくなつても良い循環が生まれている。関係づくりが上手ですね。[5]</li> </ul>
<b>[5] J A S F A</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自立発展性</li> <li>● 多様な制度を活用している。[5]</li> <li>● 組織が大きくなつても良い循環が生まれている。関係づくりが上手ですね。[5]</li> <li>● 行政の理解が高くていいね。[5]</li> <li>● 市長のキャラクター。[5]</li> <li>● 中小企業主導、市長の理解。[5]</li> <li>● 市の部局を超えた協働づくりになったことが素晴らしい。[5]</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● その他</li> <li>● EPO がのせ上手！[5]</li> <li>● 取組が素晴らしい。[5]</li> <li>● 地域づくりにつながっているのがすばらしい。[5]</li> <li>● 新しい組み合わせがいい！[5]</li> </ul>

[6] 五頭 自然 学校	効率性	● 生き物を守ることで結果的に水や農業など様々なことが保全されていていい。[6]
	効果／ 目標達成度	● 生き物を守ることで結果的に水や農業など様々なことが保全されていていい。[6]
	計画妥当性	● 自分の地域を再確認するうえではよい事業。[6] ● 里山、湿地、農業の共生・連携を、白鳥をシンボルとして進めるのは素敵。[6] ● 白鳥の視点から考えるという教育プログラムがいい。[6] ● 生き物を守ることで結果的に水や農業など様々なことが保全されていていい。[6]
	関係主体の 巻込み度	● 魅力を集めるアンケート。[6] ● 個々の活動→団体の協働→ライフスタイルの創造。[6]
	関係主体の 満足度	● 異なる立場がつながるメリットを気付かせたのがいい。[6]
	社会的インパクト	● 生き物を守ることで結果的に水や農業など様々なことが保全されていていい。[6]
	自立発展性	● 絵がわかりやすい！[6] ● 写真やイラストが素敵でわかりやすいプレゼンだった。[6] ● 紙芝居、とてもいい。[6] ● デザインがいい！資料のイラスト、ポスターレイアウト、すごく見やすいです。[6] ● 白鳥のイラストがいい、かわいい。ビジュアルを重視しているので入りやすくていい。[6] ● 白鳥の視点からみた人の関わり紙芝居がいい。[6] ● 白鳥の飛来地として充分資源化できると思う。[6] ● 生き物の視点からみた協働が素敵。[6] ● 白鳥の気持ち、下っ端のメンバーで。[6] ● 白鳥の調査をしてそれが基本となっているのがいい。[6] ● 行政区を白鳥と超える！バイオリージョナリズムですね。[6]
	その他	● 「金がない」という状況は社会関係資本の動員には実は有利！[6] ● 地域の世界観の創造のきっかけになりそう。[6]
	効率性	● 生産から販売までの仕組みをつくっているところがいい。拡大を目指してがんばって！[7]
[7] いきもの みつけ ファーム in 松本	効果／ 目標達成度	● 子どもが田植えから販売までの一貫したシステム、六次産業。[7]
	計画妥当性	● 生産から販売までの仕組みをつくっているところがいい。拡大を目指してがんばって！[7] ● 田植え体験から環境教育につなげているのがユニークでよいです。[7] ● 子どもが田植えから販売までの一貫したシステム、六次産業。[7] ● 子どもの参加があること。田植えから販売までの体験をしている。[7] ● 環境と食と経済を含めたESD的などろ。[7]
	関係主体の 巻込み度	● 企業がうまくはまっているところ。[7] ● 地域の取組ですが、各連携していくのが良いです。[7]
	関係主体の 満足度	● 各主体のメリットが明確。[7]
	社会的インパクト	● 全国に広がる取組なのでもっと広がってほしい。[7]
	自立発展性	● 全国に広がる取組なのでもっと広がってほしい。[7] ● DVDやパンフレットなど、広報ツールの活用がいい。[7] ● 環境と食と経済を含めたESD的などろ。[7]
	その他	● この事業でお互いの役割を考える機会がもてた。[7]
	効率性	● 事業者が主となって取り組むことがいいね。経済をリアルに考えられること。[8] ● 異業種のプロの連携で地域の資源の活用とビジネスをまわしているところが楽しそうで魅力的！[8]
	効果／ 目標達成度	● 木を切り、チップやマキをつくり、まきを販売し、収益をだす。そして雇用に結び付けるこの仕組みがいい。重油→木質燃料。[8]
	計画妥当性	● 木の駅連携もいいね！[8] ● 若者のまきこみの場づくり。[8] ● 地域のプロによる協働取組。地元の「プロ」は地域の財産です。[8]
[8] 越 の 国 自 然 エ ネ ル ギ ー 推 進 協 議 会	関係主体の 巻込み度	● 木の駅連携もいいね！[8] ● 地域のプロによる協働取組。地元の「プロ」は地域の財産です。[8]
	関係主体の 満足度	● 地域通貨の活用した仕組み作り。[8]
	社会的インパクト	● 雇用につながるのがいい。[8]
	自立発展性	● 作業員の動機づけという視点もいいと思いました。[8] ● 全国の森林地域の活性化に展開できそう。[8] ● ひみ森と雇用と環境のコラボがいい。[8] ● 地域通貨の活用した仕組み作り。[8]

		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経済の地域循環も目標にしているのがいい。[8]</li> <li>● 地域通貨の取組が良い。何かしらインセンティブを与えられれば持続するから。[8]</li> <li>● 循環型社会への布石の一つになる気がする。[8]</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本一のCO2削減のまちを目指して下さい。雇用が生まれるよう期待しています。[8]</li> <li>● 想いをともにし、きんきと連合体をつくりましょう！[8]</li> </ul>
[9] 南信州おひさま歩	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 議論の基盤がすでにある！[9]</li> <li>● 飯田市の文化としての「環境」。[9]</li> </ul>
	効果／目標達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 再生可能エネルギーと公民館活動のコラボレーションがよい。[9]</li> <li>● 再生可能エネルギーの地域還元がいい。[9]</li> </ul>
	計画妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ISEP(外的知見)のかかわりがいい。[9]</li> <li>● 地域環境権(地域の資源は地域のために) [9]</li> <li>● 公民館との協働→地域に学ぶと実践が根付く。[9]</li> <li>● 公民館の主事さんを巻き込む展開が面白い。[9]</li> <li>● 行政職員が公民館活動に従事することで地域を知る仕組みがあるのがよいと思った。[9]</li> <li>● 公民館を拠点にしたところがいい。[9]</li> <li>● 公民館活動いいね！[9]</li> <li>● 公民館主事が考えていることをNPOが引き出しているのがいい。[9]</li> <li>● 公民館活動ボトムアップがいいね。[9]</li> <li>● 企画から広報までちゃんと協働になっている。[9]</li> </ul>
	関係主体の巻込み度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 再生可能エネルギーと公民館活動のコラボレーションがよい。[9]</li> <li>● 地域の連携を促している。[9]</li> <li>● 公民館と地域組織とのリンクがいい。[9]</li> </ul>
	関係主体の満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● メリットを活かしあった取組がいい。[9]</li> <li>● 公民館の社交場化、人との話題の場。住民という資源を活かして人材を育てていくがんばって！[9]</li> </ul>
	社会的インパクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公民館という地区の中核施設を利用することにより地区の住民を巻き込めるのがいい。[9]</li> </ul>
	自立発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域資源=地域財産=地域利益。[9]</li> <li>● さんばちゃんがいいね。[9]</li> <li>● 再生可能エネルギーの地域還元がいい。[9]</li> <li>● 公民館を中心に環境活動を実施していること。「公民館する」という動詞づかいがいい。[9]</li> <li>● 公民館との協働→地域に学ぶと実践が根付く。[9]</li> <li>● 公民館との協働で、地域での環境教育がきめこまやかに実施できていけばらしい。[9]</li> <li>● 飯田市の文化としての「環境」。[9]</li> </ul>
[10] いけだエコスタッフ	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教師の負担を増やすずに実践していること。[10]</li> <li>● 首長部局と教育委員会との連携ができている。[10]</li> </ul>
	効果／目標達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 首長部局と教育委員会との連携ができている。[10]</li> <li>● 行政の人が今日もきているところがすごい。[10]</li> </ul>
	計画妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人権が教育において横串を刺すことの発見。(○○教育が多すぎる)→教委が理解してくれたことがすごい。[10]</li> <li>● 環境×人権をつなげる教育の位置づけがいい。[10]</li> <li>● 地域に出て行く環境教育と指導がつながっているのがすごい。[10]</li> <li>● 地域の資源を活用することからはじめたことで共通意識を参加される人に持ってもらおうと取り組まれたこと。[10]</li> <li>● 行政(市)を協働に巻き込む手法がいい！[10]</li> <li>● NPO→市→市教育委員会としてのルートを作ってくれた点がいい。[10]</li> <li>● 環境教育を科学の視点で組み立てているところ。[10]</li> <li>● 割り箸協力がいいね。[10]</li> </ul>
	関係主体の巻込み度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ネットワークが多くあり、うまく使っている。[10]</li> <li>● 地域の多様な主体をまきこんでいること。[10]</li> <li>● 首長部局と教育委員会との連携ができている。[10]</li> <li>● 関係性がうまくいっていることがわかった。[10]</li> <li>● NPOへの理解。[10]</li> <li>● 協働が進んでいる。[10]</li> <li>● 池田市、教育委員会の協力がいい。[10]</li> </ul>
	関係主体の満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校だけではなく地域の要望もきちんと取り入れている。[10]</li> <li>● 行政の人が今日もきているところがすごい。[10]</li> <li>● 行政が主体的に事業に参加している。[10]</li> <li>● 事業者と子供の響きあいがいい。[10]</li> </ul>
	社会的インパクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 行政の人が今日もきているところがすごい。[10]</li> <li>● 行政が主体的に事業に参加している。[10]</li> </ul>
	自立発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● まちを好きになるというコンセプトがいい。[10]</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>1回だけの体験ではなく提案→ブラッシュアップを繰り返しているのがいい。[10]</li> <li>学校だけではなく地域の要望もきちんと取り入れている。[10]</li> <li>協働体制やしぐみがわかりやすい。[10]</li> <li>行政の人が今日もきているところがすごい。[10]</li> <li>行政が主体的に事業に参加している。[10]</li> <li>協働する団体が多く参加されていて、今後のイメージも明確でよい。[10]</li> <li>事業者と子供の響きあいがいい。[10]</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>私たちも中学校の先生から同じようなことを言われたことがあります。世の中に必要なビジネスだと思う!! [10]</li> </ul>
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の協議会をネットワークに活用したところ。[11]</li> </ul>
	効果／ 目標達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の協議会をネットワークに活用したところ。[11]</li> <li>大人が楽しい背中を子供たちにみせるのがいい。[11]</li> </ul>
	計画妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に気づくしかけを「こども協議会」から始められたこと。[11]</li> <li>陸と海のつながりを学べる。[11]</li> <li>子どもな大人が楽しんでいること。[11]</li> <li>汚いだけでなくプラスにとらえる発想がすごい。[11]</li> <li>子供を海に連れ出した意義は大きい。[11]</li> <li>いろんな視点から海への関心を持つてもらおうとしているのがいい。[11]</li> <li>楽しいことからスタートし学習に入っていく段取りがいい。[11]</li> <li>大人が楽しい背中を子供たちにみせるのがいい。[11]</li> </ul>
	関係主体の 巻込み度	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の多様な主体をまきこんでいること。[11]</li> <li>こども協議会を通じた世代間協働がいい。[11]</li> <li>世代間の協働がいい。[11]</li> <li>自治体との調整がうまい。[11]</li> <li>中・高・大・NPO・企業などいろんなところがかかわっていること。[11]</li> <li>徳島大学の学生が直接かかわっているのがいい。[11]</li> <li>行政ぬきでこの取組はすごい。今後の発展に期待。[11]</li> </ul>
	関係主体の 満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供だけではなく大人も楽しくて勉強できるところ</li> <li>子どもな大人が楽しんでいること。[11]</li> <li>子供を海に連れ出した意義は大きい。[11]</li> </ul>
[12] み ず しま 財 団	社会的インパクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>N/A</li> </ul>
	自立発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>こども協議会でロングスパンの取組の発想がいい。[11]</li> <li>子どもな大人が楽しんでいること。[11]</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>泳げるなぎさにいつかなる気がします。[11]</li> <li>幅広い活動がいい。[11]</li> <li>においては五感の中でも一番モノの状態を示すもの！[11]</li> </ul>
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>N/A</li> </ul>
	効果／ 目標達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>丁寧なプロジェクトの進行がいい。[12]</li> <li>公害学習としてのエコツアー（文学とか）があるのがいい。[12]</li> </ul>
	計画妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな主体がかかわりやすいテーマ設定がよい。[12]</li> <li>きっかけ作りは地域課題を見据えてよかったです。[12]</li> <li>水島地域のビジョンを協働できたのがすごい。[12]</li> <li>公害学習としてのエコツアー（文学とか）があるのがいい。[12]</li> </ul>
	関係主体の 巻込み度	<ul style="list-style-type: none"> <li>水島地域のビジョンを協働できたのがすごい。[12]</li> </ul>
	関係主体の 満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>水島地域のビジョンを協働できたのがすごい。[12]</li> </ul>
	社会的インパクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちなか芸術祭、楽しみ。[12]</li> </ul>
	自立発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どものためという目標。[12]</li> <li>水島未来ビジョンに期待。[12]</li> <li>まちなか芸術祭、楽しみ。[12]</li> <li>丁寧なプロジェクトの進行がいい。[12]</li> </ul>
[13] う ど ん ま る ご	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>西村先生がいいね。[12]</li> </ul>
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>適者がもれなく協働の輪に入れていることがいい。[13]</li> </ul>
	効果／ 目標達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>適者がもれなく協働の輪に入れていることがいい。[13]</li> </ul>
	計画妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民が問題を自分ごとに感じられる「うどん」に焦点があたっていることがすごい。[13]</li> <li>食品残さのリサイクル事業をうどん県とからめたり、うどんまるごとに拡大展開したりと見せ方が上手。[13]</li> <li>アイデア勝ちです。さらにアイデアを拡大し子どもたちに伝えていってください。[13]</li> </ul>

と循環コンソーシアム	関係主体の巻込み度	<ul style="list-style-type: none"> <li>適者がもれなく協働の輪に入れていることがいい。[13]</li> <li>商店街との取組がおもしろく、展開していきそう。[13]</li> </ul>
	関係主体の満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>中小零細のうどん屋さんに自店のうどんはうどんから出来たバイオ燃料で作ったものだと自慢できると良いですね。[13]</li> </ul>
	社会的インパクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>独自の地域資源の新しい循環がいい。[13]</li> </ul>
	自立発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイデア勝ちです。さらにアイデアを拡大し子どもたちに伝えていってください。[13]</li> <li>1000トンのうどんを救うPJはすごい。[13]</li> <li>うどん真正面がいいね！[13]</li> <li>キヤッチフレーズがいい。[13]</li> <li>キヤッチャーでわかりやすい。[13]</li> <li>プレゼンのビジュアルがよい。わかりやすい。[13]</li> <li>香川県=うどん。知名度はばつぐん！[13]</li> <li>ストーリーがわかりやすい。[13]</li> <li>ストーリーが明確でいい。[13]</li> <li>地域のシンボルにフォーカスをあてたのがおもしろい。[13]</li> <li>うどん、わかりやすい。おもしろい。[13]</li> <li>写真やロゴがおしゃれでなんか楽しそう。[13]</li> <li>中小零細のうどん屋さんに自店のうどんはうどんから出来たバイオ燃料で作ったものだと自慢できると良いですね。[13]</li> <li>循環型社会のモデルとしての可能性。[13]</li> <li>独自の地域資源の新しい循環がいい。[13]</li> <li>全国にご当地循環の取組ができたらいい。[13]</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国にご当地循環の取組ができたらいい。[13]</li> <li>DVDは参考になる。[13]</li> </ul>
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査を探検部に任せるのが面白い。[14]</li> <li>学びのプロセス、情報発信、関わる人の人柄がすばらしい!! [14]</li> <li>既存のものを活かした実践。GPSや衛星通信を使った案内にも期待したい。[14]</li> </ul>
	効果／目標達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びのプロセス、情報発信、関わる人の人柄がすばらしい!! [14]</li> <li>管理者↔利用者 声を互いに伝えるしきみは大事！来期がんばって下さい。[14]</li> </ul>
	計画妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びのプロセス、情報発信、関わる人の人柄がすばらしい!! [14]</li> <li>課題・対応のツボを見つけたところがよかったです。[14]</li> <li>ポイント(ツボ)がみつかった(わかった)ことがよかったです。[14]</li> <li>ツボの発見。[14]</li> <li>負のスパイラルの分析。[14]</li> <li>地理的な課題の支配→他の地域への応用につなげられる。[14]</li> <li>経済活性化とのつながりから始まったのはすごい。[14]</li> <li>九州全域のとりくみはみごと！[14]</li> <li>管理者↔利用者 声を互いに伝えるしきみは大事！来期がんばって下さい。[14]</li> <li>様々な主体が参加できる取組をしていることがGood!! [14]</li> </ul>
	関係主体の巻込み度	<ul style="list-style-type: none"> <li>シニア世代にもウケそうですね。[14]</li> <li>壮大な構想、夢がある!!仲間内だけでなくステークホルダーのスケールも大きていい。[14]</li> <li>1年間してみて仲間がみつかったことはよかったです。[14]</li> <li>様々な主体が参加できる取組をしていることがGood!! [14]</li> </ul>
	関係主体の満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>シニア世代にもウケそうですね。[14]</li> <li>壮大な構想、夢がある!!仲間内だけでなくステークホルダーのスケールも大きていい。[14]</li> <li>1年間してみて仲間がみつかったことはよかったです。[14]</li> <li>管理者↔利用者 声を互いに伝えるしきみは大事！来期がんばって下さい。[14]</li> </ul>
[14]グリーンシティ福岡	社会的インパクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>雑誌を使って紹介されるのは良いですね。[14]</li> <li>広報のやり方が効果的ですね！[14]</li> <li>雑誌掲載が多くて。[14]</li> </ul>
	自立発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>地理的な課題の支配→他の地域への応用につなげられる。[14]</li> <li>九州全域のとりくみはみごと！[14]</li> <li>1年間してみて仲間がみつかったことはよかったです。[14]</li> </ul>
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元の理解を得られた仕組みが参考となった。[15]</li> </ul>
	効果／目標達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元の理解を得られた仕組みが参考となった。[15]</li> </ul>
	計画妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>温泉熱を再利用した取組がいいね。[15]</li> <li>地域資源の魅力をしっかりと利用できている。[15]</li> <li>地元の理解を得られた仕組みが参考となった。[15]</li> <li>地域資源の発見の仕方と視点がGood! [15]</li> <li>地域の意見を聞いて活かしている。[15]</li> </ul>
[15]小浜温泉エネル		

ギ ー		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 旅館の売上につながっているのがいいね！[15]</li> <li>● 旅行会社の研修に来てもらうのはすばらしい。[15]</li> <li>● 小浜エコツアー、ツアーの受け入れ(修学旅行、観察者)いいね。[15]</li> </ul>
	関係主体の巻込み度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● いろいろな主体がつながっていると思いました。[15]</li> <li>● 関連・関係する団体の巻込み!!素晴らしい。[15]</li> <li>● 小浜エコツアー、ツアーの受け入れ(修学旅行、観察者)いいね。[15]</li> <li>● ジオツアー環境教育の展開がいい！[15]</li> <li>● 環境学習やまちづくりなどにもつなげている！観光にも！[15]</li> <li>● 地域全体の取組、エコツアーと環境教育の連携がいいね。[15]</li> <li>● 発電事業を、観光や地域振興と結びつける発想が良いと思います。[15]</li> </ul>
	関係主体の満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 旅館の売上につながっているのがいいね！[15]</li> <li>● 発電事業を、観光や地域振興と結びつける発想が良いと思います。[15]</li> </ul>
	社会的インパクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 旅館の売上につながっているのがいいね！[15]</li> </ul>
	自立発展性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地元の理解を得られた仕組みが参考となった。[15]</li> <li>● 地域資源の発見の仕方と視点が Good! [15]</li> <li>● 地域の方に理解してもらうための地道な活動がよい！(エコ冊子配布など)。[15]</li> <li>● 発電事業を、観光や地域振興と結びつける発想が良いと思います。[15]</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 昔の取り組みを現代版に改善し活かす取り組み。[15]</li> </ul>

[1] (公財)日本環境財団／ [2] (公財)公害地域再生センター(あおぞら財団)／ [3] 知床ウトロ海域環境保全協議会準備会／ [4] (特活)もりねっと北海道／ [5] (一社)持続可能で安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会／ [6] (一社)五頭自然学校／ [7] いきのものみっけファーム in 松本推進協議会／ [8] 越の国自然エネルギー推進協議会／ [9] (特活)南信州おひさま進歩／ [10] (特活)いけだエコスタッフ／ [11] (特活)人と自然とまちづくりと／ [12] (公財)水島地域環境再生財団／ [13] うどんまるごと循環コンソーシアム／ [14] (特活)グリーンシティ福岡／ [15] (一社)小浜温泉エネルギー

【付録 3-2:協働ギャザリング参加者の評価コメントに基づくプロジェクトの提案・改善点】

		提案・改善点
[1] 日本環境協会		<ul style="list-style-type: none"> <li>● CONEと連携して安全管理講習。[1]</li> <li>● 県教委の生涯学習担当者 協議会とつながる。[1]</li> <li>● ターゲットを絞るのではなく、2・3年単位で「注力ターゲット」をつくって、その他のSHと差別化してみても良いか。[1]</li> <li>● 企業向けにプログラムを販売してみては...。(社会の社会貢献プログラムの1つにするなど)[1]</li> <li>● 子どもエコクラブの会員を活かしたカーボンオフセットの仕組みを作る。[1]</li> <li>● 全国事務局のしきいが高いと思われているのでは。[1]</li> </ul>
[2] あおぞら財団		<ul style="list-style-type: none"> <li>● これからですね、今日できたネットワークをワーキングネットにつなげていきましょう。[2]</li> <li>● 産業観光と組み合わせたエコツーリズムをつくると面白そう。[2]</li> <li>● 広報の力を充実してください。情報発信力、フォーラムの見せる力、聞かせる力の工夫が功を奏した。結果を次回にどう表現するか楽しみです。[2]</li> <li>● 何故公害に关心が低いのかを分析してみては。[2]</li> <li>● 歴史の継承(できれば語り継ぐ必要のある人に役立つもの、平和の語り部とか)。[2]</li> <li>● 環境教育→公害教育へのフィードバックプロセスの調査。[2]</li> <li>● 公害教育を楽しくするヒントを公募してはどうでしょうか。[2]</li> <li>● 陳情ではなく政策提言能力を培え持続可能な団体になれると思います。[2]</li> <li>● 環境省への政策提言をしてみてはいかがでしょうか。[2]</li> <li>● 大学の通例のカリキュラム化。[2]</li> <li>● 海外(中国や新興国)への展開。[2]</li> <li>● 公害資料館が有すべき機能・役割をもっと明確にしては。[2]</li> <li>● 合同資料集「新公害原論」みたいなものを編集しては。[2]</li> <li>● 公害資料館の運営の目的を周知させれば(書いたり言うだけでなく)利用者の思いや知りたいことをもっと引き出せるのでは? [2]</li> <li>● 職員への啓発、つながることの重要さ・効果をどのようにするか。[2]</li> <li>● 国立水俣病総合研究センターの研究に取り上げてもらってはどうでしょうか。[2]</li> <li>● 環境再生保全機構の事業・研究と連携して継続していってください。[2]</li> </ul>
[3] 知床ウトロ海域環境保全協議会準備会		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 漁業者等の意識の改革。[3]</li> <li>● 漁師さんをもっと褒めたら? [3]</li> <li>● もっと地域のシンボルに。[3]</li> <li>● グッズ展開。[3]</li> <li>● ケイマフリとくまもんのコラボ。[3]</li> <li>● 商品ツールとして広めていけば認知度があがるので</li> <li>● 地元へのサービスへの還元。[3]</li> <li>● ケイマフリと人(生活・営み・漁業)とのつながりの見える化→保護意識、資源化。[3]</li> <li>● 一般観光客の啓発。[3]</li> <li>● ケイマフリの魅力を国内外に発信する。[3]</li> <li>● めずらしいから大切ではなく、ケイマフリがいる環境・生態系というものをまもろうという動きがよいのでは?なぜケイマフリが来るのか。[3]</li> <li>● 地元民の意識改革。地元民に保護の必要性を認識してもらうことが鍵ではないかと思います。[3]</li> <li>● 他地域のケイマフリ生息地との連携、渡り先も含めて。[3]</li> <li>● 研究をサポートするボランティア→ケイマフリファンを増やす。[3]</li> <li>● このまま有名、人気になると保護のバランスが次の課題か。[3]</li> <li>● 知床半島全体での協議会。[3]</li> </ul>
[4] もりねつと北海道		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもを動かすのが難しいならこちらから行く、行事に参加する。[4]</li> <li>● 教育大学を入れると教育委員会を巻き込みやすい。[4]</li> <li>● 教育委員会のネットワークと環境部の自在バンクのさらなる連携・活用。[4]</li> <li>● 大学教員を仲間にいれると動くこともあるかもしれません。[4]</li> <li>● エゾシカの資源を有効活用して商品ブランド化することで、活動の自己財源をつくることで継続できる。その商品開発もみんなでできないか? [4]</li> <li>● 先生方が取り組みやすいようカリキュラムと連携させたプログラムの提案、アプローチがあると教員研修の参加数も変わるのでないか。[4]</li> <li>● 動物園・フィールド学習とのリンクの強化→旭川の強み! [4]</li> <li>● 環境教育プログラム(PLT)などが出来る人もいるより良いかも。[4]</li> <li>● 小学校(単体で理解)→中高校(つながり生態系)→発展(わかるつながる)[4]</li> <li>● ツールについて、様々な場所に展示できるよう、さらにたくさんの団体とつながればいいのでは。[4]</li> <li>● 教科書(テキスト)に書いていることは教えられるのですが、その先の応用(子どもの無邪気な質問に答えられないかも)と思うと自分が森の先生になるのは勇気がいる。[4]</li> </ul>
[5]	●	総合政策への反映。[5]

J A S F A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 技術専門家と地域市民のリンクの強化。[5]</li> <li>● 地元の市民団体を巻き込んで地域のエンパワーモリ意識してほしい。[5]</li> <li>● 市長がかわっても残る仕組み・体制→協定書(時々見直しできる関係性)。[5]</li> <li>● 多様な機会、効果的活用(復興に伴う機会の活用)。[5]</li> <li>● パッと見て活動が分かりづらい。これ！という例をあげてみてはいかがでしょうか。[5]</li> <li>● 技術の先に見える夢やビジョンが提示されると良い、ロゴでビジョンを示す？[5]</li> </ul>
[6] 五頭自然学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「白鳥の視点から見た」のように、伝えたいターゲットからプロジェクトを見直すと発信の切り口がかわるのでは？[6]</li> <li>● 他の自然学校と連携を求めてみると良いかと思います。[6]</li> <li>● いきものみつけファームの活動と共通点が多いのでぜひ連携できるといいですね。[6]</li> <li>● 他の環境教育活動と連携してエコノウハウの共有や活動の信頼性を向上させてはどうでしょう。[6]</li> <li>● 冬みずたんぽは知っていますか？[6]</li> <li>● 多様な財源(都市部には固定ファンをつくるなど)を獲得することも検討する。[6]</li> <li>● 人・モノ・カネ・情報の動員には地域や他団体に甘えて、多くの地域資源を動員してほしい。[6]</li> <li>● 農家さんと協力して観察スポットをいくつかつくって解放するとか？[6]</li> <li>● 地元の一般の人を講師にした学校講座？[6]</li> <li>● このかわいいイラストを生かして地元学生をまきこみ、グッズや、白鳥の視点からのエコツアーレーブンしてほしい。[6]</li> <li>● バイオリージョンの研究者にかかわってもらっては？[6]</li> <li>● 行政への横串的な存在になってほしい。[6]</li> <li>● 行政に「未来像」をみせてやってください。[6]</li> <li>● アンケートの収集機会・場の多様化。[6]</li> <li>● 地元の世界観を多くの人々が形作れるようなパズルのピースをたくさんあつめて発信してほしい。[6]</li> </ul>
[7] いきものみつけファーム in 松本	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お米のブランディングとそれを使った商品づくり。[7]</li> <li>● 生き物マーク米などブランド化の戦略ノウハウの活用をするといい。[7]</li> <li>● 流通経路ができているなら広報の力を出してください。</li> <li>● 体験にもっと地域色がでるとブランドにつながるのでは？[7]</li> <li>● イベント→商品化で安定収入を。[7]</li> <li>● もっと小学生が参加できる環境(地域の拡大など)を工夫する。[7]</li> <li>● 農政部局との連携があると良くなる気がします(田植えがらみで)。[7]</li> <li>● JAとの連携。[7]</li> <li>● フォーラムの戦略的な活用(市行政、主体まきこみ)。[7]</li> <li>● いきものみつけファームの各地スケールメリットを活かす。[7]</li> <li>● 教育委員会へのアプローチ(環境局との連携)。[7]</li> </ul>
[8] 越の国自然エネルギー推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ひみの漁業者との協働も見せてみればどうか。[8]</li> <li>● 教育との連携ができるといいと思います。[8]</li> <li>● 木の駅ネットワークをもっとアピールしては。[8]</li> <li>● 県外の人がひみの森にきて「木を1本切ったら(まきにするまで)温泉にタダで入れる」みたいな企画は？そして次は苗を植えるみたいなのも面白い。[8]</li> <li>● 足湯、きこり競技会。[8]</li> <li>● 年配者の役割の変化を踏まえた場の提供ができるか。[8]</li> <li>● 住民の理解を得ることが最大の武器となる。[8]</li> <li>● 薪ボイラーの販売とセットでこの仕組みをまわしては。[8]</li> <li>● 資源・エネルギーの共同管理をする仕組みづくりをしては→コミュニティの創造につなげてほしい。[8]</li> </ul>
[9] 南信州おひさま進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コーディネートできる人材を継続的に育てる仕組みづくり。[9]</li> <li>● 学習テーマも希望するものだけでなく実施できる仕組みづくり。[9]</li> <li>● 公民館の新しいネットワークづくりを町のエンジンに[9]</li> <li>● 公民館のメリット(ネットワーク)の活かし方。[9]</li> <li>● 学校の教育委員会とのリンク。[9]</li> <li>● 地域環境権と環境学習の位置づけを明確にすればもっと伸びるのではないか。[9]</li> <li>● 飯田市だけでなく、他市地域への展開ができる。[9]</li> <li>● 公民館だけじゃなく展開できる可能性も。[9]</li> </ul>

歩	
[10] い け だ エ コ ス タ ッ フ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小中学校で出前講座を積み重ねて事例集などを作成しては。[10]</li> <li>● 指導者(ESD)要請講座を開催し資金と人材を蓄積しては。[10]</li> <li>● 幻想をふりかけ！。[10]</li> <li>● 町の一般の人にも協力を呼びかけては。[10]</li> <li>● 「公民館する」を何かやってもらいたい。[10]</li> <li>● 環境局の強み・機会と教育委員会の強み・機会をリンクさせる。[10]</li> <li>● 他の市に広げる。[10]</li> <li>● 市外での活動。[10]</li> <li>● 小学生だけではもったいないで中学～大学、また親なども対象に。[10]</li> <li>● 大人を動員する仕組みがあると良い。大人が動けないと子供も動きづらい。[10]</li> <li>● 子供の提案が何か本当の成果になるようビジネス的側面から支援ができればよいと思います。[10]</li> <li>● なぜ環境を学ぶ必要があるのかを考えてみる。[10]</li> <li>● エコスタッフがプラットフォームとして機能できるようにする？[10]</li> <li>● 科学・技術の視点で環境を教えることが必要では。[10]</li> </ul>
[11] 人 と 自 然 と ま ち づ く り と	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 热心な個人に支えられているのでプラットフォームで組織の取組に変えていく工夫を。[11]</li> <li>● 教育委員会へもこの取組を紹介していないならするべき。[11]</li> <li>● 旧漁業者や昔を知る人との連携。[11]</li> <li>● 今後は自治体との結びつきを！[11]</li> <li>● 西淀川のESDと連携してください。[11]</li> <li>● 大阪市の漁協との連携。[11]</li> <li>● 大学生を公募する？[11]</li> <li>● 子供+大人の間に大学生がはいると活動内容に厚みがでるのでは。[11]</li> <li>● 行政の悩みに耳をかたむけて、協力するメリットを踏まえた企画を持ち込んでは。[11]</li> <li>● 県・市・国など小さな取組、行政の手間がかからないところから協力をもとめては。[11]</li> <li>● 小・中・高・大と環境教育に一貫性がないと身につかないのでは。中高生にはESD的視点を取り入れた展開に期待。[11]</li> <li>● 菜の花もよいが、尼崎らしいものが育てられたらもっといい。[11]</li> <li>● まずは狭いエリアから浄化をはじめる(ダッシュ海岸のこども主導版)。[11]</li> <li>● 海→まち→地元への愛着になるといい。[11]</li> <li>● 大気汚染とのつながり。[11]</li> <li>● 海が汚れているそもそも原因を子供たちに教えていくべき。[11]</li> </ul>
[12] み ず し ま 財 団	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 工場視察ツアーはどうでしょう。[12]</li> <li>● アフターフォローが必要。[12]</li> <li>● エコツアーのアフターフォローを。単発で終わるのはもったいない。[12]</li> <li>● 今後、協働の場をあらゆる手段を使って作ってほしい。[12]</li> <li>● 原因企業にも協働することで何かメリットがあれば。[12]</li> <li>● 活動を、企業に、市民に、NPOにそれぞれ向けの情報発信を。[12]</li> <li>● 行政、企業、NPOによる政策懇談会(協議の場)の設置。[12]</li> <li>● 今後具体的なビジョンについて話し合いを始める際は、小部会(Working Group)を作ると議論が進むと思う。WGも状況に合わせて再編することも重要なと思います。[12]</li> <li>● 防災は企業と住民の両者のメリットにつながる。[12]</li> <li>● 経済産業省の防災関係の予算・事業の活用。[12]</li> <li>● 川崎市企業は3.11後に防災についての説明会を行っていた。企業から住民への対話を。[12]</li> <li>● 企業の理解を得ること。住民との防災学習をおこなうこと。[12]</li> <li>● リスクコミュニケーション。[12]</li> <li>● 防災をテーマに信頼の構築を。[12]</li> <li>● “住民”的意識の分析(アンケート)一部の人たちの意見になっている？量で示す。[12]</li> </ul>
[13] う ど ん ま る ご と 循 環 コ ン ソ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 食育のために資金をまわしてほしい。[13]</li> <li>● 循環に廃熱利用を含めていただければ効果的。[13]</li> <li>● 何を協働取組の目標とするのか見える化。キーワードは教育か？[13]</li> <li>● 全体像が必要ではないか。[13]</li> <li>● 地域の環境課題→解決する取り組み→仕組みづくり→環境をインフラに。[13]</li> <li>● すべての電気と熱エネルギーをうどんでまかなく「うどんハウス」でうどんを売るうどん屋さん。[13]</li> <li>● 子どもたちの教材。紙芝居などをつくる。[13]</li> <li>● 産業活性課など、行政の多くのセクションを巻き込んでいく余地もあるのでは。[13]</li> <li>● 市民への落とし込みが今後の課題。[13]</li> <li>● 新しいさぬきうどんのブランディング(人にも地球にもやさしいうどん)。[13]</li> <li>● 香川の人たちは「うどん」が自分たちのものと思っているでしょうから、うどんのゴミからできたものも自分たちのもの、と思ってもらえる仕組みの工夫。[13]</li> <li>● 学校での環境教育への巻き込み。[13]</li> </ul>

一 シ ア ム	<ul style="list-style-type: none"> <li>● バッヂとかロゴの掲示。アピールツールがあるといい</li> <li>● エタノールや発電もいいが食べ物として使う方法はないか。お菓子とか。小さな設備を学校に作ることで持ち運べるキット化してその場で電気ができるという実験を子どもに見せられたらいい。[13]</li> <li>● やっぱり廃棄うどんが出ないほうが良い気がする。[13]</li> </ul>
[14] グ リ ー ン シ テ ィ 福 岡	<ul style="list-style-type: none"> <li>● FM に市町村。[14]</li> <li>● お遍路(四国)にも類似活動があつたような... ループ 88 おもてなしネットワーク。[14]</li> <li>● スポーツとの組み合わせは? [14]</li> <li>● 観光産業とのパートナーシップ、海外発信。[14]</li> <li>● 地域のコミュニティ事業者との結びつきをつくると良いかもしない。[14]</li> <li>● みちのくしおかぜトレイル。[14]</li> <li>● 大分世界農業遺産と宮崎綾町、何かつながれるか...人気スポットとからめる。[14]</li> <li>● 九州の自然学校と連携。[14]</li> <li>● 九州環境省ミーティングとの連携。[14]</li> <li>● GPS に道のデータをおとしこんでルート情報をまとめる。[14]</li> <li>● 魅力を出すために完全走破してはどうか。[14]</li> <li>● ぜひ認証システムまではいかなくとも認める制度をお願いします。[14]</li> <li>● スタンプラリー、ルート達成したら何からえるなど、リルート・魅力あるルートの再検討。[14]</li> <li>● 政策担当者、市民の多様なコミュニケーション、場づくり。[14]</li> <li>● ローテーションによる戦略的な会議開催。[14]</li> <li>● 災害対策も全面に出すと良いと思います。[14]</li> </ul>
[15] 小 浜 温 泉 エ ネ ル ギ ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エコツアーとタイアップを。[15]</li> <li>● エコツアー、観光業者との連携でまちおこし。[15]</li> <li>● 蒸し釜を使った料理の PR 力コンテスト。[15]</li> <li>● 塩・にがりの活動、生活用品の開発。[15]</li> <li>● 面白いアイデアをモデル化にやってみては? (お試し的に...)コストかかるものでもインパクトあれば他でリカバリ一すれば良いので。[15]</li> </ul>

[1] (公財)日本環境財団／ [2] (公財)公害地域再生センター(あおぞら財団)／ [3] 知床ウトロ海域環境保全協議会準備会／ [4] (特活)もりねっと北海道／ [5] (一社)持続可能で安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会／ [6] (一社)五頭自然学校／ [7] いきものみつけファーム in 松本推進協議会／ [8] 越の国自然エネルギー推進協議会／ [9] (特活)南信州おひさま進歩／ [10] (特活)いけだエコスタッフ／ [11] (特活)人と自然とまちづくりと／ [12] (公財)水島地域環境再生財団／ [13] うどんまるごと循環コンソーシアム／ [14] (特活)グリーンシティ福岡／ [15] (一社)小浜温泉エネルギー